

令和6年度 学校教育自己診断 分析結果について

【保護者アンケートの結果について】

回答率：73%（昨年度比 -6 ポイント）

26 項目のうち、21 項目において 8 割以上の肯定的な評価をいただきました。これは、日頃より皆さまから本校の教育活動にご理解とご信頼をいただいているものと受け止めております。特に、以下の項目については 95%以上の高い評価をいただきました。

- ICT 活用
- 防災・安全への取り組み
- 保護者への日々の情報提供や連携
- 子どもへの学習状況の評価

これらの点を本校の強みとして、今後もより一層充実させてまいります。

一方で、以下の 2 項目については 70%を下回る評価となりました。

1. 「学校は専門性のある教員の配置に努めている。」（69%：昨年度比 -8 ポイント）

- 幼稚部では昨年度より向上しましたが、小学部において 20 ポイント以上の低下が見られました。これは、補聴器の買い替えや調整業務が学校内で対応できなくなったことが主な要因と考えられます。
- 今後の対応： 聴能業務に関する教員のスキルアップを図る研修を継続し、専門性向上に取り組めます。

2. 「学校運営に、保護者、教職員の意見が反映されている」（68%：昨年度比 大幅減）

- 幼稚部において 78 ポイントの大幅な低下が見られました。今年度、運営面で大きな変更点はありませんでしたが、次年度からの保護者付き添いなし保育への移行準備など、変更に向けての動きが影響した可能性も考えられます。
- 今後の対応： 各部の経営にあたっては、保護者の皆さまのご意見を丁寧に伺いながら進めてまいります。

3. 「学校は、子どもが他の学校の子どもたちや地域の人たちと交流する機会を設けている」（82%：昨年度比 +6 ポイント）

- 小学部と中学部においては、地域の学校や聴覚支援学校との学校間交流が計画的に進められています。居住地校交流においても、行事参加に加え、教科学習を共に行う共同学習が増加しています。
- 幼稚部においては、今年度、交流及び共同学習の在り方について検討を進め、居住地地域の幼保育園との交流希望があれば、学校として積極的に働きかけていく方針としました。これらの取り組みが評価向上につながったと考えられます。
- 今後の検討課題： 幼稚部において、学校間交流の意義や進め方について検討する必要があると考えています。

【教職員アンケートの結果について】

回答率：88%（昨年度比 -8 ポイント）回答率 100%を目指し、より多くの教職員の声を生かせるよう努めてまいります。

1. 「各分掌や各部間の連携がうまく行われている」（70%未満：項目数 2）

- 首席による各分掌との連携や、企画会議内容の各部への伝達など、縦の連携体制は構築されています。しかし、個々の教職員が分掌間や学部間の横の連携を実感しにくい現状があると考えられます。
- 今後の対応： 全校的な課題について、部や分掌を越えて共に考える機会を設け、連携強化を図ってまいります。

2. 「各教科の備品や教材教具が適切に配置され、十分に活用されている」（小学部 47%）

- 昨年度と同様に小学部で低い評価となりました。予算活用委員会を中心に限られた予算の有効活用に努めていますが、教科書指導書等への支出もあり、十分な予算確保が難しい状況です。
- 今後の対応： 研究助成への応募など、新たな財源確保についても検討してまいります。

3. 「教職員間で授業見学をし、指導方法を検討する機会を持っている」（82%：昨年度比 +9 ポイント）

- 研究部が推進する研究授業や公開授業の成果が表れてきています。互見授業は教員の学びを深めるうえで重要であるため、今後も積極的に推進してまいります。

【保護者アンケートと教職員アンケートとの比較】

- 進路指導とホームページの項目において、両者の評価に大きな開きが見られました。
- 進路指導： 幼稚部において保護者の評価が低い傾向にあります。保護者の皆さまの不安やご希望を受け止め、より良い進路決定に向けて共に考える姿勢をより一層大切にまいります。
- ホームページ： 幼稚部において保護者の評価が低くなっています。適宜情報提供に努めておりますが、保護者の皆さまがホームページでどのような情報を求めているかを把握し、改善に努めてまいります。

【児童、生徒アンケートの結果について】

- 小学部児童： 「どんな仕事をしたいか考えることがある」の項目が 75%と最も低い評価でしたが、全体的に大きな課題は見られませんでした。将来について考えたことのない児童がいることを踏まえ、キャリア教育の視点から、一人ひとりが夢や目標を持てるような働きかけを計画的に進めてまいります。
- 中学部生徒： ホームページ閲覧の評価が 50%と、昨年度より 15 ポイント向上しました。生徒たちがホームページに掲載する内容を作成する取り組みが、閲覧促進につながっていると考えられます。今後も、生徒が見たくなる、発信したくなるようなホームページづくりに取り組んでまいります。
- 回答において「思わない (D)」を選択した児童生徒がいることについても、その理由を注視し、今後の教育活動に活かしてまいります。